

第3回安曇野市消防委員会

- 1 審議会名 安曇野市消防委員会
- 2 日 時 令和6年10月8日 午後6時00分から午後7時00分まで
- 3 会 場 安曇野市役所 201会議室
- 4 出席者 百瀬委員長、井口職務代理、二木委員、藤原委員、草深委員、栗原委員、宮島委員、  
小平委員、大野田委員、小澤委員、平林委員(消防署長)高橋委員(団長)  
危機管理課 消防防災係 課長補佐兼係長 布山 担当 今井、高山、水谷
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴人 0人 記者 0人
- 7 会議概要作成年月日 令和6年10月10日

協 議 事 項 等

【会議の概要】

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 会議事項  
(1)検討課題  
ア 機能別消防団員の導入について  
イ 消防委員会の委員定数と女性委員について
- 4 閉 会

【会議事項】 <検討課題>

- ア 機能別消防団員の導入について

事務局 前回委員会より消防団員減少への対策案として、大規模災害対応団員(サポート団員)、予防広報団員、重機隊の3つの項目が挙げられた。1つ目の大規模災害対応団員(サポート団員)として消防団OBを募集する案は後述のとおり、2つ目の予防広報団員は現行の女性消防隊と音楽部隊があてはまる。3つ目の重機隊については、導入は難しいと考える。なぜなら本市が安曇野市建設業組合と結ぶ災害時協定の内容が、重機隊と同様の活動を行う点、また重機を使用できる業者が重複している点が挙げられる。

以上のことから、機能別消防団員の導入についての原案は、消防団OBを中心とした団員を新規募集し、今後の本委員会では活動内容や年齢の上限などの検討を考えている。

委員(署長):

大規模災害対応の新規団員募集には賛成である。常備消防は大規模地震が発生すると広域的な災害の被害状況を確認するため、ピンポイントの消火活動や救急活動ができなくなる。そういった状況下では消防団が率先して消火活動などを行う。

先日の訓練で、常備消防よりも消防団が先着しての活動を想定したが、団員の動きがぎこちなく、心細く感じた。現役団員は現場の経験も少なく致し方ない部分もあるだろう

から、消防団OBが指揮統制を行えばスムーズな活動が望めるのではないかと思う。

消防団OB、特に元幹部団員を中心に災害時対応として機能別の活動を行うことに賛成である。

重機隊は大規模災害時には協定の内容で十分かと思う。

消防団OBは大規模災害時だけでなく通常の火災時でも、活動を行うと心強い。

委員： 大規模災害時に常備消防がピンポイントの活動ができないことはよく理解している。

機能別消防団員として消防団OBや高齢で地域を守りたいと思う人の募集には賛成である。活動内容は今後詰めていけばよいと思う。

現団長に消防団OBが活動することについて、どのような意見があるか伺いたい。

委員(団長) 最近は団員減少が著しく、人が集まらない地域も多い。大規模災害時に、何人の団員が集まれるのか不安である。そんな現状に対し大規模災害時に消防団OBが駆けつけるならば本当に心強く、いろいろな知恵を頂ける。

委員： 自主防災組織で消防団OBが役職を担っている状況が多いと思うので、整合性をうまくとって、機能別消防団員を導入してほしい。

事務局： 自主防災組織との兼ね合いは、各地区の状況を確認し資料提供を考えている。

委員： 自主防災組織には消防団員は入れないと思う、事務局で確認してほしい。自主防災組織は基本無償で、機能別消防団員ならば保険の関係もあり、待遇は同じとはならないだろうから一緒にやるのは難しいと思う。そうはいつても、機能別消防団員の導入は非常に良いことだと思うので、事務局に両者の兼ね合いをしっかりと調査し、今後提案してほしい。

#### <検討課題>

##### イ 女性委員の選出と委員定数について

事務局： 女性消防委員は消防団経験者からの選出を原案とする。

委員： 女性消防隊というのは、どういった活動を行っているのか。

事務局： 現在24名の女性消防隊員が在籍し、活動内容は主に救急救命講習や消防団の予防広報活動としてイベントに参加している。各自治体同士の女性消防隊の交流もある。

委員： 男性の消防団員とは異なる仕事、役目があることがわかった。女性消防委員の選出には賛成である。

委員長： 女性消防委員は女性消防隊経験者から選出とする。

事務局： 委員定数は、現在各ブロックから2名ずつ選出しているが、次期委員会から1名ずつの選出との提案があった。女性委員1名、各ブロックから1名、現団長、豊科消防署長の計8名を原案として提案する。

また、近隣自治体の消防委員会の状況や、本市消防団の活動も軌道に乗り、審議の内容も減っていることから開催回数を基本年2回にし、議論内容によって回数を増減させることを提案する。

委員4： 委員定数もだが、選出方法の基準を設けることを検討してほしい。

委員長は各地域の委員選出状況を確認する。

穂高、堀金、三郷、明科は消防団を退任してから年数が経ってからの委員選出なので、現役団員との交流が乏しく、次の委員を推薦するにも退任したばかりの団員との交流がないため、選出しづらいとのこと。

委員： 豊科ブロックでは、他の地域と同じで、現役団員と委員の年齢差が離れすぎているという理由から、私が委員のときに選出する委員の年齢を変えた。私は副団長をやる前に委員となり、その後に入団した。他の地域の委員には順番が逆だと言われたが、むしろ入団前に消防団のことを委員の立場として考えることで、入団したときに消防団と消防委員の意見がよくまとまったように感じた。そういった自身の経験から若い現役の人が消防委員をやることは良いと思う。例えば具体的な年齢は、45歳くらいで消防団を退団し、その後の50歳前後で機能別消防団員として活動しながら消防委員にもなるようなイメージを描いている。

しかし、安曇野市消防委員会を無くすことには反対である。先日、松本市消防団長OBと話した中では、現役消防団の活動を支える別組織として、消防委員会はあったほうが良いとのことであった。塩尻市や松本市は消防委員会を廃止しているが、そうではないと思う。

委員長： 委員定数については、各ブロック1名選出の5名と女性委員1名、現団長と消防署長の合計8名とする。

会議回数は年2回を基本に、必要に応じて回数を変動させることとする。

さて、今年度の残り1回の委員会は、例年通り行うということでよろしいか。

委員： 賛成である。引き続き、議論が必要であるため、今年度の1回も開催したほうがよい。

事務局： 次回の議題も、機能別消防団員として消防団OBの活動内容や年齢制限などの具体的な運用方法の議論を重ねてほしい。また、委員の選出については事務局で原案を用意するので、それに基づく議論をしてほしい。

次回 令和7年2月4日(火) 18:30から